Keyword 共用家具　公共空間　自然　居心地が良い

公共空間における家具デザインに関する研究

―利用者にとって快適な環境を提供する共用家具の設計―

芸術研究科 造形表現専攻
デザイン領域 博士前期課程
2025年3月修了

徐 鵬

主査 佐藤 昭則　**副査** 井上 貢一　安齋 哲

研究背景

日本において公共空間の概念は江戸時代に遡り、都市の発達とともに、公共空間の開発と利用は重要になってきている。公共空間は社会的な交流や文化的活動を促進し、コミュニティ形成や市民生活の質の向上に寄与する。近年、都市化の進展に伴い、公共空間は多目的空間へと変化し、日本でもその概念が積極的に取り入れられている。しかし、現代社会においてストレスが高まるにつれて、特にコロナ禍以降、一人暮らしの数も増加しており、うつ病の発症率も増加している。したがって、より多くの人を収容し、心を穏やかにする効果を持ちながら、調和のとれた共存を促す公共空間を作ることが重要である。

研究目的

家具を共用することによって、都市の公共空間の属性を豊かで多様なものにすることができる。本研究では、都市の公共空間や複合施設内の共用スペースにおいて、家具デザインを通じて、利用者に安らぎと快適さを提供し、心理的・視覚的な体験を向上させることを目的とした。また、このデザインを活用することで、空間の持つ社会的価値を高め、利用者間の交流を促進し、魅力的な公共空間の実現を目指すこととした。

研究概要

家具を共用することによって、都市の公共空間の属性を豊かで多様なものにすることができる。本研究では、都市の公共空間や複合施設内の共用スペースにおいて、家具デザインを通じて、利用者に安らぎと快適さを提供し、心理的・視覚的な体験を向上させることを目的とした。また、このデザインを活用することで、空間の持つ社会的価値を高め、利用者間の交流を促進し、魅力的な公共空間の実現を目指すこととした。

成果・まとめ

本研究では、都市の公共空間や複合施設内の共用スペースにおける共用家具の設計提案を通じて、家具が利用者に安らぎや快適さを提供し、心理的・視覚的な体験を向上させる可能性について検討した。共用家具では、空間の属性を豊かで多様なものにし、自然をモチーフとした色彩、材質、形態を設計に取り入れることで、利用者に心理的な安定感や空間への親しみを感じさせる可能性を示すことができたと考えている。また、これらの要素を統合的に活用することで、利用者同士の交流を促進し、社会的価値の高い公共空間を実現するデザインの方向性を示すことができると考えている。

指導教員コメント

この研究では、私たちが日々利用している公共空間のあり方について、その機能と要望そして理想とは何なのか、について現場取材を基に整理し「心地よい空間とは何か」について考えました。そして家具による一つの空間提案という形で表現してくれました。デザインアイデアとしては、明るく心地よい雰囲気を作り出すものにまとまったと思います。実際の家具設計と製品化では、ここから製造方法の検討や強度・構造の検討とそのためのデザイン変更、材料費と販売価格、などの検討が行われ、最終的に製品として世の中に出すのか否かが、経営、営業部署などにも評価され決定されます。今後は、製品づくりの現場でより現実的な問題も突きつけられることになりますが、その様な中でも今回取り組んだ「ユーザーにとって最適な環境を提供する」というコアの部分を見失うことなく家具製品のデザインに取り組めるデザイナーになってほしいと願っています。

佐藤 昭則